

日時：令和5年6月22日（木）10：00～12：00

場所：平館高等学校 研修ホール

出席者：13名

- ・委員10名（3名欠席）
遠藤幸宏、寺澤幸昌、工藤昌雄、佐藤晃、鈴木絵美、瀬川恵子、高宮征宏、
田中耕一、宮野千栄、吉田裕香
- ・千葉賢 校長
- ・事務局 後藤知恵（副校長）、石川千枝（総務主任）

- 1 辞令交付
- 2 校長あいさつ
- 3 家庭クラブ研究紹介（家庭クラブ代表生徒6名）
「未来につなぐ西根ムラサキ草～ムラサキ草プロジェクトで人と人をつなぐ～」
（令和4年度 第70回東北ブロック高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 優秀賞）
- 4 委員自己紹介
- 5 協議・報告等事項
 - (1) 令和5年度平館高等学校学校運営協議会委員について
 - ・会長、副会長について資料のとおり承認された
 - (2) 平館高等学校学校運営協議会の基本方針について（案）
 - ・資料のとおり承認された
 - (3) 令和5年度学校運営協議会年間計画について（案）
 - ・資料のとおり承認された
 - (4) 令和5年度学校運営の基本方針について
 - ・学校運営計画、魅力化ビジョンについて校長から報告
 - ・質問意見特になし
 - (5) 令和5年度教育振興会事業計画・予算書について
 - ・副校長より報告
 - ・八幡平市補助金内訳について遠藤委員（八幡平教育委員会）より補足説明質問意見特になし
 - (6) 平館高等学校の状況 H27～R5 について
 - ・副校長より報告
 - ・議長から寺澤委員（西根中学校長）に中学生在籍数の状況について質問
⇒本校は昨年度末より20名減の212名だが、これから暫くは、200名を切らないところで維持できそうである。（寺澤委員）
 - (7) 令和4年度平館高等学校外部講師等実績一覧
 - ・副校長より報告
 - ・質問意見特になし
 - (8) その他
 - <各委員より>
 - ・入学者の低減率が高い。これは少子高齢化でどこの学校でも課題になっており、いずれ統合などの話も出てくる可能性もある。まずは、きちんと進学ができる体制を作っていかなければならない。また、公務員を希望している生徒を早い段階から育て、将来は市役所に勤めてもらえるような形にするなど、具体的に取組まなければならない。文化祭の来場者も減っているようなので、地域の方が行ってみたいと思える工夫（イベント的なもの。演奏会など）が必要。県外募集については、宿泊施設など地域と協力して受け入れ体制を整えなければ希望する生徒は集まらないだろう。（工藤委員）

- ・八幡平市の人口減少はだいぶ改善されてきているようだ。平高生は地元志向が多いというデータがあるので、地元就職した子どもたちが、地元で結婚して地元で定着するようになっていけば現状維持は叶うのではないかと考える。そこで、地元の高校に入ってもらうために魅力発信するきっかけをこの会で作ることができればよい。就職したい生徒にとっても、進学希望の生徒にとっても将来に繋がる魅力の発信の仕方を考えて頑張っていけばいいのではないか。(佐藤委員)
- ・入学者を増やしたいと家政科学科の先生たちとよく話をしている。地域の協力をたくさん得ながらどういうことをやっているのか、学校の雰囲気や進学状況に関しても魅力の発信方法は色々ある。イベント性という点も確かに効果的(人が人を呼ぶ)などところもある。中学3年生がこれから進路を決める時や高校見学もだいぶ親の考えの影響を受けると思うが、親や地域の人に平館高校のことをもっともっと知って欲しいと思っている。授業のコーディネートをやっているので、できるだけ外部に発信するようにはしている。今回委員に商工会の女性部長さんを推薦させてもらったのは、商工会は様々な企業が集まっているので発信する場が広がりやすく、女性部はボランティアもやっているのでは何かイベントの時に平館高校とも繋がっていくことができるのではないかと考えた。今これといった具体的なアイデアはまだ出てこないが、授業の中でITを駆使して動画を作って配信してみようというような生徒の興味もいっぱいあるので、そこには対応していきたい。(鈴木委員)
- ・入学者の減少は少しびっくりしたというのが正直な気持ちである。自分の子どもの時は、部活動が強いなどの基準で決めていたので、人数が少ないから部活動が活性化しないという悪循環になっているのではないかと。部活動で進学先の高校を決めるということはあるのかもしれない。内側からのPRが大事だと思う。個人的には活字で見る情報の方がよい。このようなところで就職できるというアピールや卒業後のところもアピールしていくとよいのではないかと。(瀬川委員)
- ・学校の基本姿勢に「豊かなコミュニケーション、優しい心」があるが、そのようなヒューマンスキルや優しい心を育てるためには、様々な体験や経験が大事になってくる。自分にできることは、その関わりだと思う。外部講師一覧を見ても活発な取り組みがされていたので、その中で自分も協力していきたい。瀬川委員の話にあった部活動の取り組みによる影響は、意外と大きいかもしれない。何か変化をつけられるのであれば、そういった所から始めていくのも一つの選択肢かもしれない。情報発信については、小中学生はだいぶ電子媒体に慣れているので、電子媒体の方が有効だと思う。(高宮委員)
- ・部活動で入学者を呼び込むのは難しくなっている。一方企業は、部活動を続けてきたかという点を重視するという話も聞いたことがある。きちんと仲間づくりをやってきた人を引き込みたいというのが強いようだ。平館高校でできる部活動に限られるのは仕方ない。他の活動を通して、たくさんの支援をする人たちが全てお膳立てするのではなく、生徒たちに実践力を育てて、平館高校を卒業したら、就職でも大学に行ってもどこに行ってもできる人、使える人になれるというようなところをPRできるようになればよいのではないかと。これからは、SNSでの発信力を身に付けることも大事だと思うので、学校からの情報発信を生徒にも更新してもらおうという取組も良いと思う。(宮野委員)

- ・先日中学3年生の話聞く機会があった。生徒は平高に入りたいと思っても、親が他校を勧める状況であった。関わっている人たちは平高の良さを知っているが、もっと地域の人たちに平高の魅力発信をした方がいいと感じている。例えば、市の広報の平高のページの改善や地域のお祭りやイベントで発表する機会を増やす等。また、ホームページにnoteをリンクさせた方がよい。フォロワー数も少ないので、もう少し上手くやって行った方がよい。自分も動画制作などの経験があるので、声をかけてもらえばお手伝いできる。
(吉田委員)
- ・部活動に所属していない生徒がいるようだが、他校では、フリースポーツ部(集まったメンバーで種目を決めるシステム。週2回の活動。土日はなし。)を作ったところもあるようだ。体を動かしたいけれども何かのクラブに固定されるのは嫌だとか、帰宅部にはなりたくないという生徒のニーズに合っていると感じた。時代の変化に合わせて、色々知恵を絞っていかねばならないと思っているところ。(寺澤委員)
- ・平館高校は地元志向が強いという話があったが、市内企業では、採用に困っている状況もあり、工業系でも平高から直で来ても2年3年で育てる自信があるということだ。公務員希望が少なくなっている状況もあるが、市役所の仕事もおもしろいのでPRして欲しい。(遠藤委員)
- ・子どもが平館高校を希望していても親が反対するという話はよく聞くことなので、親への魅力発信が必要だ。クラブについては、自分の高校時代は全員入部だったが、木曜日だけは好きな部活動に行っても良いという日があって、楽しんだことを思い出す。新聞の声の欄への投稿はとても良い取組だと思う。これからも楽しみにしている。これからは、体育館でのイベントなども人数に余裕があると思うので、地域の人参加できるようにしたり、紫薫祭を地域の人と合同で企画したりしてはどうか。商工会と連携して校庭でのイベントなどもできるのでは。(田中委員)

6 その他

校長より、お礼の挨拶